

第428回: 中朝対立報道に困惑の中国

11月30日の産経新聞が公明党の訪中記事を概ね以下のように報じている。

中国共産党と世界の政党の対話会に出席するため訪中する公明党の山口那津男代表は、北朝鮮問題への対応に関し、出発前に羽田空港で「国連安全保障理事会での新たな合意や進展も含めて中国側の理解と協力を求めたい」と述べ、今後の日中関係については「首脳間の往来を実現し、二国間外交の揺るぎない今後の基礎にしたい。これを呼びかけてきたい」と語った。安倍晋三首相から託された習近平国家主席宛ての親書に関しては、「各国の政党のリーダーを招く中で、国家主席の出る場面もあるだろう。その機会に親書を届け、意思疎通を図ればありがたい」と述べた。

北京到着後の山口代表の行動について、12月2日と4日の毎日新聞報道の要旨は次のとおり。

公明党の山口那津男代表は2日午後、北京の人民大会堂で、中国共産党最高指導部で政治局常務委員の王滬寧氏を各国の政党代表約25人が囲む会談に参加した。会談後、山口氏は習近平国家主席と1日に面会したことも踏まえ「日中対話の扉を開く新しい時代の第一歩をしるせた」と成果を強調した。

山口代表は習主席に安倍首相の親書を手渡すなど存在感の発揮に努めたが、習氏との面会は短時間で終わり思惑が外れた面もある。北京では党最高指導部7人のうち3人と会った。党政治局常務委員(序列4位)の汪洋副首相との会談は北京の要人居住地である中南海で行われた。

習主席とは短時間の会話、序列5位の王滬寧とは各国政党のリーダーが集うイベントの中で面談、序列4位の汪洋氏とは単独会談。都合合わせてチャイナセブンの中の3人と面談したということだ。

ここまではよかったのだが、12日の共同通信が次のように報道した。

◎中朝対立報道、公明に抗議＝共産党序列4位の発言隠蔽

中国共産党序列4位の汪洋副首相が1日、北京で公明党の山口那津男代表と会談した際、北朝鮮と「対立している」と述べたと報道されたことについて、会談内容を日本メディアに説明した公明党に対し、中国側が抗議していたことが11日分かった。複数の日中関係筋が明らかにした。北朝鮮の反発を懸念し、発言の隠蔽を図ったとみられる。

中国は対話を通じた北朝鮮の核・ミサイル問題解決を主張し、各国に「慎重な言動」を求めている。中国の最高指導部メンバーが中朝対立を認めたことが公になるのは異例で、発言を日本メディアに明らかにした公明党に批判の矛先を向けた形だ。

1日の会談後、同席した公明党関係者が、汪氏は中朝関係について「中国と北朝鮮の間には血で固めた関係があったが、今は核問題のために対立している」と述べたと明かし、日本メディアが一斉に報道した。

中国共産党の対外交流部門、中央対外連絡部が2日、公明党側に「そんなことは言っていない」と抗議した。だが複数の関係筋によると、汪氏は友好的な関係から互いに敵視する関係に変わったという意味の「反目成仇」という強い言葉を使って北朝鮮の核保有に反対を表明していた。(以下略)

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

公明党は日中国交回復の舞台裏で、田中首相や大平外相をサポートし、周恩来首相への密使役を勤めるなど、中国とは長い友好関係を保っている。日本駐箚の程永華大使も、池田大作創価学会会長(当時)が身元保証人となり創価大学で学んだ経緯がある。

そんな関係で、気心の知れた老朋友との面談で、汪洋副首相も気が緩んだのだろう。オフレコで発言したのか、それとも口が滑ってウツカリ発言したのか、いずれにしても発言内容は事実には違いない。

汪洋氏は昔から率直な発言で知られた人物である。かつて政治局委員として広東省の党委書記を勤めていたとき、重慶市トップの薄熙来が進めていたマフィア追放運動に言及し、「リーダーたる者は成果を短期で求めるべきではなく、大規模な政治キャンペーンを展開しても汚職追放はできない」と述べ、更に「ケーキが焼き上がる(経済成長する)前に、ケーキの切り分け方(富の配分)を議論しても意味がない」と、全盛期の薄熙来を真っ向批判したこともある。

でも今回の汪洋発言は、彼のウツカリチョンボのようだ。「反目成仇」とは、読んで字の如く、親の敵のように反目すると云う意味。日本語で似たニュアンスの成語を探せば「不倶戴天之敵」であり、中国と北朝鮮との関係が日中問題や中韓問題とは比較にならないほど悪化し、にっちもさっちもどうにもブルドッグとなっていることを示している。

本年 11 月に習近平主席は党中央対外連絡部(中聯部)の宋濤(62)部長を特使として北朝鮮に派遣し、北朝鮮が進める核・ミサイル開発の自制を求めたが、北朝鮮は同氏が政治局委員にもなっていない「小者」であることに腹を立て、金正恩委員長は面談に応じず、労働党副委員長クラスが応対した模様。

中聯部とは、「共産党の外務省」のような存在で、社会主義国との外交や、国交のない国との折衝の窓口であり、宋濤部長は、中国外交部の王毅外相と同格であり、決して礼を失した人物の派遣ではないのだが、北朝鮮は最低ランクでも楊潔篪(政治局委員で外交担当の國務委員)、できればチャイナセブンの誰かを期待していたようだ。

一部報道や噂によると、北朝鮮側は習近平主席からの「お土産」を副委員長が受取り、訪朝の初日から金正恩委員長が出席しないことを露骨に示して、宋濤氏を冷遇した。これに対し中国が激怒、それが「反目成仇」発言につながったようだ。子供のケンカのような気がしないでもない。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成29年12月13日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱 UFJ 信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

① 株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

② 債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3

